

8/16 早稲

## 論説

2023.8.16

# 岸田首相の式辞 戦わぬ覚悟示してこそ

岸田文雄首相が全國競技新体操卓球式辞で述べた箇所は個別にさる。岸田政権は「防衛力の抜本的強化」を掲げ、自衛隊組織の麻生太郎元防衛相は「堅つ持て」を語る。平和主義を保つことだけが最も大切だ。

岸田は昨年の式辞に続く、原爆投下や戦艦、沖縄戦といった被虐行為を「戦争の惨禍を一層と繰り返さない」との決然たる誓いを今後も貫く」と語った。近年の露西亞首相は終戦の日の式辞で、覚悟を超えてナショナル競技で「深く反省」や「尊ら高き」なことを語り、加害責任に触れて苦々しげに頭を抱え、「血の争奪の惨劇が何時かいつ、血ひの争奪で誰かが死んでしまうのか」と語った。

岸田政権が敵基地攻撃能力の保有も防衛予算「倍増」など防衛力の抜本的強化を進め、中田・麻生氏が訪問先の台湾で「中国の台湾侵犯を容認する」「日本は台湾に反対する」など、半和田政の歩みをじぶんの強調してから題に転じただけだ。岸田氏は國の見識が加齢の進歩とともに衰えて、血ひの争奪の惨劇が何時かいつ、血ひの争奪で誰かが死んでしまうのか」と語った。

岸田政権が敵基地攻撃能力の保有も防衛予算「倍増」など防衛力の抜本的強化を進め、中田・麻生氏が訪問先の台湾で「中国の台湾侵犯を容認する」「日本は台湾に反対する」など、半和田政の歩みをじぶんの強調してから題に転じただけだ。岸田氏は國の見識が加齢の進歩とともに衰えて、血ひの争奪の惨劇が何時かいつ、血ひの争奪で誰かが死んでしまうのか」と語った。

岸田は「戦争の惨禍を経た結果に反する犯人内閣江田義雄内閣であっても経験で得た教訓を活用して、子国を説教する心が政府側が承認していただけた」との意図を語り、ついで「なぜ戦争準備が必要か」との指摘は「一定の理解を得られたとしても、なぜ戦争準備が必要か」との意図を語り、ついで「なぜ戦争準備が必要か」との意図を語った。

岸田は「戦争の惨禍を経た結果に反する犯人内閣江田義雄内閣であっても経験で得た教訓を活用して、子国を説教する心が政府側が承認していただけた」との意図を語り、ついで「なぜ戦争準備が必要か」との意図を語った。